

## 「支える側が支えられるとき」

～認知症の母が教えてくれたこと～

ふじ かわ こう の すけ

講師

藤川幸之助 先生



写真提供：長崎新聞社

## 講師プロフィール

■詩人・児童文学作家。日本児童文学者協会会員。  
 ■1962年生。湯前町出身。長崎大学大学院教育学研究科修了。  
 ■小学校の教師を経て、現在は認知症の母親の介護の経験をもとに、命や認知症を題材にした作品を作り続けている。また、認知症への理解を深めるため全国各地で講演活動を行っている(講演回数487回<2023年3月現在>)。作品や活動は、「天声人語」などの多くの新聞やNHK Hartネット TVなどのメディアでも取り上げられている。  
 詩集『支える側が支えられ 生かされていく』(致知出版)『手をつないで見上げた空は』(ポプラ社)『満月の夜、母を施設に置いて』(中央法規)など著作多数。

日時：令和5年3月22日(水) 18:00 開場 18:20 開会  
 20:30 終了

場所：水上村岩野公民館  
 湯前町保健センター  
 多良木町多目的研修センター

3会場でのオンライン  
 講演会となります。

お問合せ先：水上村役場保健福祉課 ☎ 44-0313

とびら  
扉

認知症の母を  
 老人ホームに入れた。

藤川幸之助

認知症の老人たちの中で

静かに座って私を見つめる母が

涙の向こう側にぼんやり見えた。

私が帰ろうとすると

何も分かるはずもない母が

私の手をぎゅつとつかんだ。

そしてどこまでもどこまでも

私の後をついてきた。

\*

私がホームから帰ってしまつと

私が出ていった重い扉の前に

母はぴつたりとくっついて

ずっとその扉を見つめているんだと聞いた。

それでも

母を老人ホームに入れたまま

私は帰る。

母にとっては重い重い扉を

私はひよいと開けて

また今日も帰る。

『満月の夜、母を施設に置いて』(中央法規)